

指導のポイント

監修：白梅学園大学大学院／無藤 隆
 執筆：共立女子大学／白川佳子(ねらい)
 東京家政学院大学／和田美香(導入・展開の言葉かけ)
 國學院大学／吉永安里(小学校へのつながり)



『キンダーまなびきっず』は、5歳の時期にふさわしい「考える力」が育つことを目指し、「ことば・かず・くふう」の3つの柱で、子どもたちが楽しく考えることができるようなページ構成になっています。子どもが日ごろの遊びや日常生活の体験をイメージし、自然に無理なく、楽しい気持ちで取り組めるように、「ねらい」「導入・展開の言葉かけ」「小学校へのつながり」のポイントを本書では紹介しています。保育の中で子どもたちと取り組む際に、ぜひ活用ください。

ことば(言葉・文字)

言葉のつかい方や文字の書き方、漢字の成り立ちについて楽しく学びます。

ことば P.4~5 隠れている文字・言葉

ねらい 縦や横に並んでいる文字の中から「動物」や「果物」の言葉を探すことにより言葉の理解や上位概念の学びにつながります。

導入の言葉かけのヒント

「ひらがながたくさんあるよ。この文字の中に、動物と果物が、かくれんぼしているんだって。見つけられるかな」と誘うと、楽しみながら取り組めるでしょう。

展開の言葉かけのヒント

なかなか探せないときには、「絵の中にもヒントがあるかもしれないよ」とイラストを見ながら探すとよいでしょう。見つけることができれば、「みつけた」と言いながら鉛筆で丸く囲むと、達成感を味わえます。動物や果物以外の言葉を探しても楽しいですね。

● 小学校へのつながり

言葉は上位概念(サルに対する「動物」、動物に対する「生物」など)によって分類できます。概念を階層化する力は、各教科の学習で用いられる多様な語彙を理解し分類する力につながります。



ことば P.6~7 助詞

ねらい 名詞に付いて他の語との意味関係を示す助詞の働きに注目し、助詞が変わると文の意味も変わることを学びます。

導入の言葉かけのヒント

助詞の部分を強調して声に出して文を読んでみましょう。「□の字が違えば、文の意味が変わるね。□の中は、魔法の言葉だね」と助詞への興味を誘います。

展開の言葉かけのヒント

ペンギンくんやおすもうさんのイラストで助詞の違いがわかったら、身近なできごとで簡単な文章を作り、助詞の違いを楽しんでみてもよいでしょう。たとえば、「先生と本を読む」「先生が本を読む」「先生に本を読む」など、具体的に表現をして、違いを体験してみるとよいでしょう。

● 小学校へのつながり

主語と述語をつなぐ助詞には、その関係を示す格助詞と、意味を付け加える副助詞があります。助詞の理解は、正しく読み書きする力につながります。微妙な意味の違いに気づく言語感覚を幼児期に養っておきましょう。



ことば P.8~9 文作り

ねらい 絵を見ながら「いつ」「だれが」「どこで」「何をした」という文作りに取り組み、文の構造に親しみます。

導入の言葉かけのヒント

見本を見ながら「お日さまが出てから朝だね」「鉄棒があるから公園だね」と確認します。その後、「マッキーとナッキーのお話を考えてみようね」と誘います。

展開の言葉かけのヒント

なかなかスムーズに文を作ることができない場合は、「いつかな?」「場所はどこかな?」「何をしているのかな?」と一つひとつ質問していくと、わかりやすくなります。慣れてきたら、この形式に当てはめて、「○○ちゃんの今日のできごと」をテーマに、自由に文を作ってみても楽しいでしょう。

● 小学校へのつながり

「いつ」「だれが」「どこで」「何をした」という文の基本構造を理解する力は、大事な情報を落とさずに話したり聞いたりする幼児期にも必要とされる力であり、小学校以上では書くことにもつながっていきます。



かず (数量・図形)

思考力や認識力の礎となる、数や図形の基本的な概念について楽しく学びます。

かず P.16~17 合成(足し算)

ねらい 2つの数を合わせるといくつになるのかを考えながら、足し算の概念に親しみます。

導入の言葉かけのヒント

「甘いチョコレート、好きだね。パレンタインデーが近いから、ナッキーたちはチョコレートを作っているみたいだよ。いくつあるかな。かぞえてみよう」と誘います。

展開の言葉かけのヒント

「お花チョコもハートチョコもおもしろいね。両方食べたいね。合わせていくつかな。かぞえてみよう」と誘います。かぞえながら「おいしいね。パクパク」と食べるまねをしても楽しいでしょう。数字を書くときは書き順に気をつけて、ていねいに書くように声をかけるとよいですね。

● 小学校へのつながり

抽象的な数字だけで足し算の操作をできることが、1年生での学習の目標です。幼児期には、ものの数と数字の対応関係に気づき、順序数でかぞえることから始め、次に集合数で、そして最後は数字だけでも理解できるように段階を踏んでいきましょう。



かず P.18~19 分解(引き算)

ねらい 2つの数の違いを確認しながら、引き算の概念に親しみます。

導入の言葉かけのヒント

「わあ、チョコレートが増えているね。どのチョコレートがいちばん多いかな」と、まずはそれぞれのチョコレートの数に注目するような言葉かけるとよいでしょう。

展開の言葉かけのヒント

「お花チョコとハートチョコは、どちらが多いかな」と問いかけ、次に「いくつ多いかな」と考えていくとよいでしょう。わかりにくい場合は、「ひとつ食べました」「2つ食べました」と言いながら、両方のチョコをひとつずつ鉛筆でマークして確認すると、理解しやすいでしょう。

● 小学校へのつながり

ものの数と数字の対応関係をまずは理解できるようにしましょう。少ない方の数の分だけ多い方に囲みなどの印をつけ、残った数が2つの数の「違い」であることに気づけるとよいでしょう。



かたち P.22~23 点つなぎ

ねらい 1から50までの数字の点を順番にたどって絵を描きながら、数字の順番を学びます。

導入の言葉かけのヒント

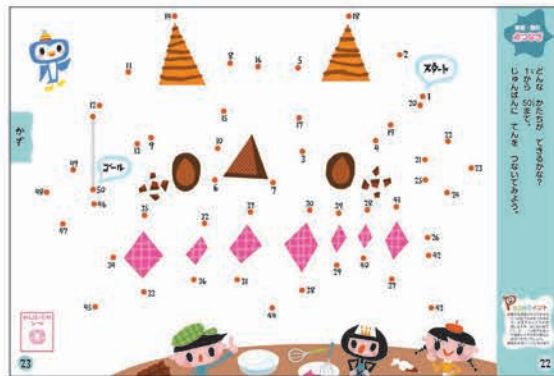
「数字の順番に線をつないでいくと、何かの絵が出てくるみたいだよ」と誘います。「なんの絵かなあ。当てっこしよう」とクイズ形式にしても楽しいでしょう。

展開の言葉かけのヒント

「何が出てくるかなあ」と、できあがりを楽しみにするような言葉かけます。数が大きくなりスムーズに探せない場合には、「45はどこかな? 46はどこかな?」と声をかけながら進みます。点と点の距離があり、まっすぐ鉛筆の線が引きづらい場合には、定規を利用してよいでしょう。

● 小学校へのつながり

数の大小や順序を理解し、2桁の数や簡単な3桁の数など大きい数に親しむことは、1年生での算数の数や計算の学習につながります。



くふう (思考・創造)

自ら考え創意工夫する力(思考力・創造力)を養い、小学校での学びの土台を育みます。

くふう P.28~29 推理

ねらい シールをつかったり頭の中で図を回転させることで、推理しながら図形感覚を育みます。

導入の言葉かけのヒント

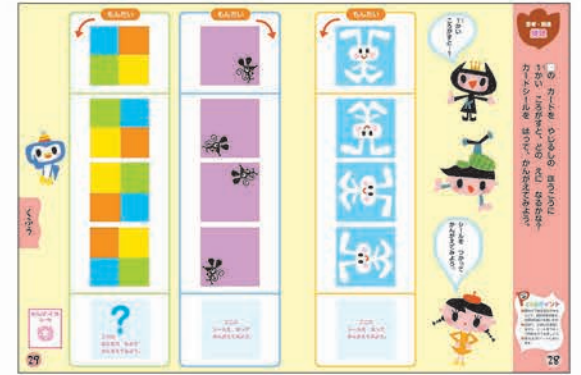
「ウサギがぐるっと1回転がると……、逆立ちかな? 横向きかな? 耳はどちらになるかな」などと声をかけて考えてみましょう。シールをつかうとわかりやすいですね。

展開の言葉かけのヒント

シールをつかって具体的に絵を操作して考えたり、「でんぐり返し」という子どもが日常よくつかう言葉をつかって説明すると、回転をイメージしやすくなります。慣れてきたら「このウサギは、何回転がっちゃったのかな」と正解以外の絵についても聞いてみるとよいでしょう。

● 小学校へのつながり

頭の中で図を回転させる力は、小学校の図形の学習につながります。部分(1つの点や線)に注目して、それがどのように移動するか、集中してていねいに追っていく力をつけましょう。



くふう P.30~31 発見

ねらい 身近な自然現象や他者の視点を意識しながら、不合理な点を発見し、探究心を育みます。

導入の言葉かけのヒント

「わあ、風が吹いてきた。ろうそくの火はどうなるかな? 桜の花びらはどうなるかな? 帽子はどっちに飛ぶかな」と一つひとつイメージしながら確認するとよいでしょう。

展開の言葉かけのヒント

実体験をもとに考えると、取り組みの楽しさが増えるでしょう。「影を作ってみよう」と誘い、影踏み遊びをする中で影の見え方を確認したり、またボールと鉛筆立てを置いて「どう見えるかな?」と見る位置による見え方の違いを確認したりすると、より理解しやすくなります。

● 小学校へのつながり

身近な自然現象や、自分とは異なる他者の視点を理解する力は、理科の学習のみならず、国語の読み取りの力、他者と円滑にコミュニケーションする力にもつながります。



くふう P.32~33 まとめ(空間認識)

ねらい 絵と記号を対応させて置き換えをすることで、空間認識力だけでなく集中力を養います。

導入の言葉かけのヒント

見本を確認し、「順番に同じ印を書いてみようね」と誘います。園の先生が出席をとるように「ぶたさん」と呼びながら印を書くと、ごっこ遊び気分が楽しいですね。

展開の言葉かけのヒント

印を書くときに「どうしてネコは×なのに、ブタは○なの?」などと、その理由を知りたい子どもがいる場合や、印の決まりがスムーズに覚えられない子どもがいる場合には、「ネコさんは、歯磨きをしなかったから×なんだって」というような、簡単なお話を即興で作って取り組んでみてみましょう。

● 小学校へのつながり

ある絵(具体物)と特定の記号を対応させる力は、言葉や数字など記号を操作する力につながります。国語や算数など、あらゆる学習の基礎となる抽象的な記号の操作能力の基礎を養いましょう。

